



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



平成29年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会を開催

平成29年度世界遺産地域科学委員会と特定鳥獣保護管理検討委員会及びヤクシカ・ワーキンググループの合同会議が2日間にわたり、屋久島町の環境文化村センターにおいて開催されました。

■ヤクシカWGの概要（8月1日）

会議では、前回の合同会議の検討経過概要、ヤクシカの現状、平成28年度及び29年度の各機関の取組、ヤクシカ対策における検討について「検討の場」の報告、屋久島西部地域の自然環境保護に関する申し入れ等について議論されました。

特に、生態系管理の目標を早く定め関係者間で共有することが重要である等の意見が多く出されました。



ヤクシカWGにて説明を行う 局計画保全部長

■科学委員会（8月2日）

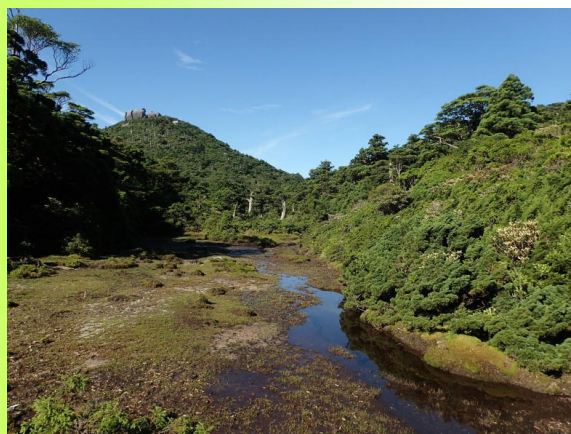
科学委員会では、①屋久島世界遺産地域管理計画の実績及び平成29年度事業予定②モニタリング調査等の予定③山岳部における利用の検討状況④林業遺産の認定等について議論されました。

環境省からは、登山道の荒廃状況調査結果と今年度の調査予定、山岳部における利用のあり方、淀川登山口休憩舎の設置等について説明がありました。



科学委員会の様子

九州森林管理局からは、平成28年度に実施した事業実績及び平成29年度の事業の中で、垂直方向の植生モニタリング調査、縄文杉ケーブリング撤去、高層湿原の植生保護柵及び植生回復等調査について説明がありました。その中でも、高層湿原（小花之江河）において取り組む植生保護柵設置等に関する項目については、各委員の方々から課題と対策について活発な意見等があり、今後の事業実行や次年度以降の対策として検討することとしました。



小花之江河の状況

学生実習の受け入れ (7月21日)

九州大学 持続可能な社会のための決断科学センターは、ヤクシカの増加に伴う下層植生の減少が昆虫相に与える影響の基礎的調査のため、7月に屋久島を訪れました。

その際、学生実習の一環として同行した学生3名を対象に、「ヤクスギの歴史と現況」及び「屋久島の森林・林業の概要」について屋久島森林管理署から説明を行い、当センターからは「ヤクシカ被害とその対策について」の説明を行いました。また、ヤクシカの捕獲に使う笠松式くくり罠や止め刺しに使う電殺機の実演も行いました。

実習生からは、ヤクスギの今後の資源見通しや、主伐・再生林の増加が見込まれる現状を見据えた低コスト林業、及び学生の専門分野であるヤクシマオニクワガタの生息地等について質問があり、お互い有意義な意見交換会となりました。



意見交換の状況

「シカと森林のカード（屋久島版）」が完成

ヤクシカ（ニホンジカの亜種）は、かつて「人2万、サル2万、シカ2万」と云われたように、屋久島を代表する動物であり、現在でも屋久島を訪れる観光客の目をなごませる代表的な動物です。



完成した「シカカード」

しかし、世界自然遺産地域を有する屋久島でもヤクシカは、日本国内のニホンジカと同様に増加し、農作物の食害、造林木の剥皮被害や貴重な固有植物の食害や生態系への影響など様々な問題が発生しています。

今回、当センターは、ヤクシカが増えすぎると森林の動植物にどのような影響が出るのか、そして森をどのようにして守ったらよいのか等を知ってもらうため、森林環境教育の教材として「シカと森林のカード（屋久島版）」を作成しました。

また、今回作成したカードは、以前九州森林管理局にて作成された「シカと森林のカード」を基に、屋久島の実態に合わせ、ヤクシカの生態や屋久島の動植物、捕獲方法等屋久島の特徴を盛り込んだ内容となっており、小学生等を対象にした森林教室等での活用を今後計画しています。

外来種の脅威から守れ (7月26日)

当センターにおいて、「第1回屋久島外来種対策行政連絡会」が屋久島森林管理署、当センター、環境省、鹿児島県、屋久島町、屋久島環境文化財団が出席し開催されました。

本会の目的は、外来種の脅威から屋久島を守るため、関係行政機関が外来種についての情報・認識を共有し取組を推進することにより、世界自然遺産地域をはじめとする貴重な自然資源を有する地域の適切な生態系保護と、農業被害対策も含めた生活環境の保全に努めることとしています。

当日の会議では、屋久島の外来種に係わる予防・監視・対策の検討や各行政機関の外来種対策の取組報告と、共有化など活動内容の確認、関係行政機関連携による共通課題の取組など今後の活動内容の確認などが行われました。



課題確認の様子

屋久島の蝶（第2回）

— 屋久島を経て旅をするアサギマダラ(1) —

久保田 義則（鹿児島昆虫同好会）

アサギマダラは開張(羽根を広げた大きさ)が10cm程度の南方系の美しい蝶(写真)で、種名は、翅(はね)に浅葱色(あさぎいろ・薄い水色)の斑(まだら)模様があることに由来します。日本全土に生息しており、従来は、土地土地に定着している在来種と考えられていました。1960年以降、この蝶は移動をしているのではないかという発表がなされました。そして1980年、鹿児島昆虫同好会が中心になって、マーキングによる移動調査を開始しました。鹿児島における調査は順調に滑り出し、関西にも拠点ができ、全国規模に進展しました。2003年には調査成果が「旅をする蝶 アサギマダラ」という本にまとめられるまでになりました。この時点では、屋久島には、マーキング調査に関わる人がいなかったため、アサギマダラの移動に関しては空白地帯になっていました。この年の10月、鹿児島での移動調査の推進者であった福田晴夫先生がマーキングに来島され、案内したことを契機として、マーキング調査を始めました。

(秋季・南下) 秋になり気温が下がり始めますと、本州の涼しい高地で過ごしていたアサギマダラは低温に押し出されるように南下し始めます。屋久島への南下蝶の到来は、10月下旬から始まり、丁度この頃咲き始めるアサギマダラの好きなヤマヒヨドリに集まります。一年を通して屋久島でアサギマダラが最も多いのは11月中旬です。花に飛来した蝶を捕獲し標識(マーク)を付けますが、捕まえた蝶の中には、既にマークの付いた蝶が混じっています。マーク蝶の捕獲頻度は年により異なりますが、2010年以降では、標識頭数44頭(2011年)～87頭(2013年)に対しマーク蝶1頭が混じる割合です。これまでの14年間の秋季の標識総頭数は32,900頭、マーク蝶の再捕獲頭数は400頭です。マーク蝶の標識地(出発地)は、大阪・京都の2府の他、山形・宮城・福島・群馬・栃木・静岡・長野・山梨・富山・石川・福井・岐阜・愛知・滋賀・三重・奈良・和歌山・兵庫・岡山・鳥取・山口・徳島・愛媛・高知・長崎・福岡・大分・宮崎・鹿児島の29県と全国の広範囲に及びます。最遠地は山形県山形市蔵王からの飛来で移動距離は1,290km、移動日数は94日でした。屋久島で標識を付けた32,900頭は、南の島々へ向けて飛びたった蝶達です。その内88頭が再捕獲されました。88頭の内53頭が喜界島での再捕獲で全体の60%を占めています。再捕獲された島々は、喜界島・奄美大島・与論島・伊良部島・沖縄本島・石垣島・黒島・与那国島・台湾の蘭嶼島及び澎湖島です。最遠地は台湾の蘭嶼島で移動距離は1,314km、移動日数は17日でした。主要な移動を図に示します。(つづく)



写真. ヤマヒヨドリに吸蜜するアサギマダラ



図. アサギマダラの移動(秋季・南下)



屋久島の植物

コバノボタンヅル（キンボウゲ科）

四国・九州・沖縄に分布する半常緑のつる性木本。屋久島では低地の明るい場所で他の樹木などに登っている。葉は複葉で、小葉には切れ込みがある。センニンソウ・ヤマハンショウヅルの小葉はほぼ全縁。花期は9～10月、4枚の萼片と多数の雄しべが目立つ花をつける。



屋久島北部等の植生垂直分布調査（平成27年度）

●標高1250㍎プロット（スギーハイノキ群集）

龍神杉近く、尾根付近の平衡斜面上にあり、「益救参道」から約30㍎離れた場所に設置。高木層はスギのほかユズリハ、ヤマグルマなどの常緑広葉樹、ヒメシャラ、カナクギノキ等の落葉広葉樹が生育する混交林。

【結果概要】

高木層、亜高木層としてスギやユズリハ、ハイノキなど、低木層としてサクラツツジやハイノキなど、草本層にはハイノキ、ホソバコケシノブ、コウヤコケシノブなどが生育。ホソバコケシノブはヤクシカの不適好性植物である。調査地の低木層、草本層の植被率は低く、また表土流亡が目立ち、一部では樹木の根が露出しヤクシカの採食圧によるものと考えられた。

【草本層の変化とヤクシカ生息状況】

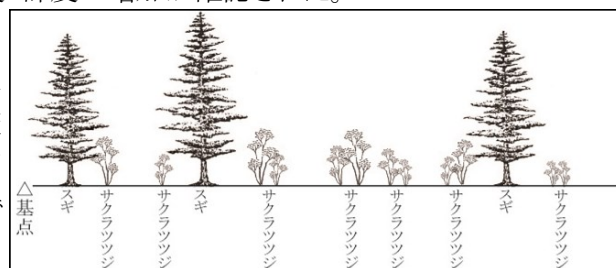
植被率は20%から10%へと減少した。同一小プロット内の出現種を比較すると、種数が19種から25種と増加した。スギやヒメシャラといった高木層構成種の稚樹が、今回の調査では確認されなかった。ヤクシカの嗜好植物であり、採食された可能性がある。その場合、将来において森林更新に影響を及ぼし、優占種の変化が起こる可能性が考えられる。またヤクシカの嫌いな植物であるフタリシズカやマムシグサなどが新規に確認され、同様に嫌いな植物であるコバノイシカグマでは被度・群度の増加が確認された。

【過年度との比較】

H22調査では、H17調査との比較としてユズリハやハイノキが旺盛になっていたが、今回調査でも同様であった。なお、H22調査ではヤクシカの採食圧が目立ち始めた程度であったが、今回調査では、草本層の植被率が低く表土流亡も確認されるほどまで被害が進行していた。



プロット付近の概況



群落配分図(横断図)



巨樹・著名木 屋久杉

三本槍杉 さんぼんやりすぎ

三本槍杉は、斜めになった幹の上に3本の屋久杉が並んでいます。斜めに倒れ込んだ屋久杉の先端が垂直に伸びています。(写真)幹の途中から立ち上がっている2本は倒木更新と同様に着生して成長したものとされます。

この屋久杉に限らず、珍しい樹形のものをよくよく観察すると興味深いものがあります。

着生木本類は、ナナカマド、サクラツツジ等です。湿度条件は良好ですが、日照が少なく着生も活発ではありません。



- 樹高：25.0㍎(最大のもの)
- 胸高周囲：2.7㍎(最大のもの)
- 樹齢：不明
- 標高：830㍎
- 場所：白谷雲水峡奉行杉コース沿い

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)